

鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県速敦郡上中町熊川
TEL/FAX (0770)62-0330



復元なった熊川番所



熊川宿の東の地に、江戸時代、小浜藩の番所が置かれました。「入り鉄砲に出女」の統制と、出入りの物資への課税も行われました。

熊川番所も明治三年にその役割を終えました。以後、番所は小林家として大切に守られてきました。

この度、復元整備をするに当たり、詳細な調査を行いました。その結果、この建物が、間口三間、奥行一間半の大きさで、前面には屋根が一間ほど伸びて、土間が設けられていたことが明らかとなりました。復元工事においては、使える部材や土壁など可能な限り再利用に努めました。また、文献史料によれば正面にはすだれが掛けられ、周辺の門や柵、燈籠などが設けられていました。この番所は、全国の重要伝統的建造物群保存地区のなかでも唯一のものであり、極めて貴重な歴史遺産といえます。

目次

熊川宿	1
寄稿文	2 3
寄稿文・読み物	4
行事・話題	5
活動報告・お知らせ	6

癒しの宿の想念

上中町助役 若 新 進

敬意を表しているところ
です。

若き義民・松木庄左衛門先生は、泰然として母上、今こそ我が一命もて、万民の命に代える秋、と言われたと聞き伝えられています。熊川宿が重伝建保存地区に選定されて以来整備が進む中で、今こそが、熊川宿に永久の命を注ぐ時期かと想念する一人です。

私は、三十六年前から、熊川との縁がございまして、下ノ町へ再三、足を運ばせていただいております。

現在では、当時と比べ、感動を覚えるまでに整備されつつあり、区民の方々の気持ちも町並みの姿もたいへんな変わりようです。

このことは、町並みという歴史的な文化財を中心とした、多彩なまちづくり活動の成果が実ったものであり熊川区民の皆さんをはじめ、若狭熊川宿まちづくり特別委員会及び関係各位のひとかたならぬご尽力の賜物と深く



お蔭様で、熊川宿は国の重伝建保存地区の

選定と同じくして歴史国道の選定と水の郷の認定を併せて受けさせて頂き、私と致しまして、ここに至るまでのまちづくりに関係された皆さんの業績に関しまして誇りに感じておりますし、常に、全国一の宿場町ですと自負しております。

私は、これからの町並み保存につきましましては、大事業が順次進められておりますハード的な整備に加えましてソフト的な整備をより強く推進すべき時期ではないかと思えます。

まちづくりは、共生発展の実現であり、知恵と工夫で住みやすい町を目指すものです。

しかし熊川区の人口構成は、高齢化率が極めて高く、六十五歳以上の高齢者が約四十八パーセントを占めています。

このことは、熊川宿の活性化が危ぶまれる事態に遭遇することが想定され、元気のある

熊川宿を存続させるためには、若者の定住人口の確保が最も重要と考えられますので、転出している若者達を呼び戻すための策をどうするか、その打開策が無いとすれば、全国的に呼びかけ、熊川宿で定住を希望される理解ある若者で新しい転入者の確保も考えられるのではないだろうか。

いずれにしても、癒しの宿としての期待に添うためにも、住みやすいまちづくりを推し進めるためにも、英断の時期に来ていると考えられるところではあります。

町並みに若者があふれている、ふれあつて仲良く、よく食べたこと、よく飲んだことを想い出す、こんな熊川宿であつてほしい。

熊川宿と商工会

上中町商工会 森 下 健

商工会の業務は金融の斡旋、税務申告の指導、労働保険の諸手続き等、町の商工業者の方々の経営のお手伝いをさせて頂くこと、もう一つは地域の振興や活性化を図る、いわゆる「まちづくり」事業との二本柱を重点項目として活動を展開しています。

熊川宿が重伝建に指定されて以来、商工会として三つの事業を過去に取り組んできましたので、その概要を説明させて頂きます。

最初は平成十二年度に国の補

助四百万円を受け、「ふるさと情報発信事業」を実施しました。プロのナレーターによる熊川宿



のビデオの制作や観光客へのキーホルダーのプレゼントのほか、手作り風の散策マップを作成したところたいへん評判が良く、関西地方の旅行社から一〇〇部単位の発送依頼が相次ぎ増刷を重ねたこともあり、現在も当時のマップがお店のあちこちに置かれお客様に喜んで頂いています。京都へも出向

熊川区の住民となつて

山本 初枝

風光る物みな光り人も亦

私が主人の故郷に来て二年たち、初めはとまどいの毎日でしたが、都会とちがひ熊川の人達の、のんびりした性格が私にあったのか、いつの間にか許される会のいくつかにも入れて頂き、徐々に慣れ、何とかよちよち乍らついていける生活を送っています。

勿論もう少し若い時期に此地に寄せていただいていたら、又違った考えになっていたかも知れません。

私の実母も介護①の認定を受けている為、月一回は大阪の方へ様子見に帰らせてもらう約束も、私の方で放棄している始末です。

さて、何が居てこちいいのかを考えますと、大がかりな町並みでなく、歴史的にもそんな有名なものがあるでもな



く？、小市民的な郷愁を匂わせ、友達にも

「一寸遊びに来て」と気軽に声をかけられる雰囲気があるからではないのでしょうか。

勿論、各個人、各団体がそれぞれの立場で、立派な熊川宿達成の為に努力をなされておられる事は良くわかりますし、それも鈍鈍ぼる事なく、せかずにじっくり進めている事も原因の一つかと思えます。

今年には四十年ぶりとかの「山車」を華やかな姿で見せていただき、且つ小学生が一生懸命に囃子、鉦をうつ姿にも伝統継承の力を感じました。来年は何が出来てくるのだらうと期待感、益々つのります。動物、とくに猿、猪の農作物被害に悩まされ乍らも、

逆に楽しんでるかの如き日常会話等もほほえましく感じます。

いつ迄も此の水と緑ときれいな空気に包まれたあたたかい熊川宿であることを願いつつ、明日への新しい一歩を皆さんと共に味わえる事を感謝しております。

宣伝に出向き、当時お世話になった出町柳商店街の役員さん方とは必ず「いっぶく時代村」でお目にかかっています。

その次は十三年度に県の補助を受け「地域商業活性化事業」に取り組みました。これは街道沿いに残っている空き家を活用する事業で、幸い西宮市在住の井上一夫さんにご理解を得ることができ、その昔金物屋さんだった玄関部分を改造させて頂くことができました。たくさんの方にギャラリーとして活用して頂き観光客に喜んで頂けたことと思っております。現在は「無料休憩所」として開放し、悪天候の折には道行く人たちにたいそう喜ばれ、休日は「熊川お茶の会」の皆さんのご協力を頂き

上ノ町からも電柱が消えた!

中ノ町、下ノ町に続き、上ノ町の電柱が移設され、街道が広く明るく感じられるようになりました。

さらに下ノ町前川の石積みや道路整備、中ノ町の再舗装整備が進められ、ますます住みやすく魅力ある町並みが蘇ろうとしています。



上ノ町の町並み

(移設前)

(移設後)



整備中の下ノ町

「茶屋」としても活動しています。

「無料休憩所」ができたのをきっかけとして、周辺業者者が「ほっと想い出クラブ」を設立し、団結して販売促進に取り組んでおられます。間もなくスタンプを活用した「粗品進呈」が実施されますので、どれだけ売り上げが伸びるか楽しみにしているところです。

そのほか商工会熊川支部では春と夏と秋には「桜」と「七夕」と「もみじ」の全戸飾り付けが行なわれ、町並みとマッチした風景に観光客はもちろん地元住民の方にも喜ばれ、必ずどなた様からお礼状を頂きます。

このように商工会は商売の繁盛と地域の繁栄を願って活動してまいりますので、今後ともよろしくご理解とご協力をお願い致します。

熊川宿にみる素朴さの中にある温もり

近田 こづえ

熊川で暮らすようになり、まもなく二年が過ぎようとしています。はじめは、福岡から嫁に来た私は熊川に対して田舎という以外特別な思いをもちませんでした。しかし、日々暮らしていくうちに、ここに暮らす人々の熊川への思いや受け継がれてきた町並みの伝統の重みを感じるようになりました。

熊川の町並みと文化を紹介するイベントとして、「熊川いっぶく時代村」という催しがあります。昨年、私はこのイベントを訪れる人々に熊川葛を紹介するコーナーの町娘として、初めて「いっぶく時代村」に参加させていただきました。

私にとって、葛は身近なものではなかったのですが、紹介していくうちに、昔はお菓子として食べられていたこと、少



し風邪をひいた時に飲む(食べる)と体が温まり、風邪薬の代わりになっていたこと、真っ白い良質の葛を作るにはかなりの手間と苦労があることなど、いろいろなることを知ることができました。

葛をふるまってみると意外にも、子ども

達に葛は好評で喜んで食べてくれました。手作りの菓子よりも市販の菓子類に馴染んでいる最近の子ども達が、昔ながらのお菓みにふれ、素朴な味のよさを感じてくれたことが、とても嬉しかったです。また、子どもの頃、葛をよく口にしていた年代の方々には、懐かしい気持ちになっていただけたようです。昔、葛を食べていた頃の思い出を語ってくださる方もいました。このように様々な年代の方々とふれあうことができたことは、貴重な体験となりました。

あいにくの天候だったにもかかわらず、二日間にもわたって行われたこのイベントには、遠方からも多くの方が来られました。古い町並みに加え、猿回し・船細工・駕籠かきなど、昔にタイムスリップしたような感覚を味わえるこの「熊川いっぶく時代村」が、年齢を問わず楽しめる催しだからだと思います。このように、世代を超えて楽しめ、伝えられてきた町並みを活かせる、「いっぶく時代村」という催しをこれからも長く続けてほしい(いきたい)と考えています。

熊川宿は小さな集落で、行事のたびにすべての人が参加しなければ、ことが運ばないような大変さがありますが、その苦労の分だけひとつになる団結力と助け合う心が生まれているように思います。そういったことは都会にいた時には感じたことはありませんでした。そうした心のつながりを大切に、熊川のよさをこれからも学んでいきたいと思っています。

読み物

麿香

細川幽斎の室

宮下市郎

若狭鯖街道の宿場館に細川幽斎(藤孝)と妻麿香の肖像百(フー)が置かれている。一流の京狩野の作品である。いずれも高さ一〇四センチとある。これは京都南禅寺天授庵所蔵の重要文化財である。

幽斎は七十七才、麿香は七十五才で没したので、その面後に描かれたものである。

この天授庵は幽斎が慶長年間(1624)に建立した。忠興に後事を託した麿香は丹後から京に居を移し、有職故実を研究し、文雅の余生を送っていたが、慶長十五年(一六三〇)の夏病臥した。そして己の遺骸を自分の生誕地南禅寺北門前の長回廊敷で葬らるにふし、天授庵と豊前小倉に分けて葬るよう指示した。

天授庵に幽斎夫妻の墓や肖像がある所以である。

麿香は若狭熊川城主沼田勘解由光兼の娘として生まれ、幽斎と結婚し、忠興をはじめ四男四女をもうけた。忠

興の妻玉子(後のガラシャ夫人)は明智光秀・照子の三女である。

ずっと通るが熊川城主沼田勘解由は瓜生城主松宮玄蕃との戦いに敗れ、近江にのがれ、さらに田辺城(舞鶴)、富津城に移った。

京都にいた頃、細川的一条も三好松永軍に囲まれた。永禄六年(一五六三)十一月に生まれた長男熊千代の方の忠興は、乳母の中村新助の妻に託されて一条館に残っていた。

健気な乳母は守り筋一本をもって敵の重圍を逃れ、京のまぢの裏家を一軒借りて熊千代を「京八」という偽名を使って母子共に隠れ住むことが出来たという。この母こそ麿香であり、後に細川氏の家老となり、京都青蓮寺(勝徳寺)城二の丸の今に残る「沼田丸一跡に住居を構えた沼田氏である。中村新助には、その功によって一五〇石、乳母は大層として二〇〇石が与え

第8回 若狭鯖街道熊川宿

まちづくりフォーラム

◆テーマ
新しいまちづくり

秋晴れの平成14年11月10日
改修なった松木神社義民館にて

第一部 家直し語り

話し手 井上 守さん(左宮)

澤田一夫さん(大工)

聞き手 福井宇洋先生

「熊川は、川、

町並み、建造物がきれいですばらしい。人情を感じる」「ぬくもりある修理をしたい。基礎をしつかり固めることが大切」と感想を語って頂き、熊川への愛情と技術に誇りを持って修理されていると感じました。



第二部 まちづくり語り

話し手 高橋こよさん(つる細工)

平尾希典さん(伝統芸能保存会)

聞き手 尾中信夫先生

「つる細工の研修で行った山南町の製品は力強くて、いろいろ勉強になった。木や焼物、和紙などと組合せていきたい」

「つっせんは、優雅で和歌調、鳴り物がない、味わいある踊りと思う。今年は中学

生も頑張ってくれた。子供たちから区民みんなに広げていきたい」

第三部 循環型社会の家づくり

まちづくり・ひとづくり

講師 鈴木 有先生



日本の家は、自然素材を使い、再利用できる木を大切にしている。

熊川は、道・川・区画・地形に恵まれ、資産がたくさんある。伝統を生かした修復、細やかな気配りがされ、誇りを持って暮せる家を大切に、次世代へ伝えて頂きたい。



平成15年度 若狭熊川宿 まちづくり特別委員会 事業計画

6月上旬	ケナフの種まき
7月上旬	町並み通信第8号発行 (年2~3回)
7月中旬	城跡整備 町並み憲章実施
8月15日	納涼盆踊り
9月27日・28日	熊川いっぶく時代村
10月19日	まちづくり研修 (ダム対協賛)

※町並み関連の駐車場等の草刈、清掃は随時行います。

られ、家来に取立てられている。

関ヶ原の戦いが迫った慶長五年(一六〇〇)七月十七日石田三成は高道の細川座敷にガラシヤ夫人を自殺させ、田辺城に兵を向けた。

西軍は福知山城主小野木鐵助をほじめ一五〇〇〇余人の大軍、細川勢はわずかに五〇〇人、初心者に火薬のこめ方など速成訓練して五十余日をもちこたえた。

この戦争で豊吉は馬足を身にまとい、寄せ手の中で空砲を撃つなどのサボタージュによって、陣に幽霊の延命をはかってくれた攻陣軍の将領を差別させている。すなわち、夫人の紅と白粉をもちいて、その隊の旗印や幟を絵図にさせたのである。

この絵図のおかげで、関ヶ原の合戦後に家康の糾弾をまぬがれた大名も少なくなかった。小出、藤掛、谷、川勝などの諸家は幽霊に生命を助けられたといえよう。

この田辺城攻防戦のさなかに「古今伝授」の儀式が八美宮聖仁親主に対して行われた。

いにしへも

今もかはらぬ 世の中に
心のたねを残す 豊の雄

この歌にちなんでつけられた「心推園」が今も都市公園の一角に残り、「古今伝授の松」が今もその歴史を綴っている。

偉大なる文武兼備の幽霊の感化によるものが豊吉は和歌を詠み、また琴に巧みであったらしい。

そして忠興に従って豊前に移つてからはキリスト教を信じマリヤと称している。

洗礼は慶長六年(一六〇一)でNHK「日本史探訪」ではジャコブと呼んでいる。

平成五年五月刊『歴史探訪本別冊』に細川マリヤ(幽霊屋三(一五四四-一六二八)の珍しい若き豊吉が描っている。

◆参考文献

加米林二著『熊川家の秘密』
桑田史観著作集第七巻

『戦国の女性』
五十嵐房男著

『新編五城今昔物語』



「熊川の歴史を学ぶ」

宮下市郎氏の講師で熊川ゆかりの人物を学ぶ講演会が行われました。



夏を思わせる好天のもと白石神社の祭礼が行われました。昨秋完成した「熊川の山車」にこのほど漆塗りが施され、お囃子を奏でる子どもたちを載せて、みんなで曳くその雄姿に重みと品格が感じられました。

5/3

念願叶って曳き山車巡行



熊川宿伝統芸能保存会は、「ふるさと文化復興事業」により、熊川の伝統芸能であります「熊川のおせん踊り」、「白石神社祭礼祭囃子」、「熊川音頭」を一冊にまとめた教本を作成しました。

熊川の伝統芸能を広く永く



2/22

ひなまつり総集会

若新助役より「全国的にも立派な手づくりのまちづくりが行われている」と激励がありました。修景の進行状況、語り部さんの活動報告の後、河原昌之さんの琴演奏があり、清らかな心地になりました。

鯖街道熊川宿で
二日間のタイムスリップ。

上中町制50周年記念
若狭路博2003上中ステージ

熊川いっぶく時代村

と き：平成15年 9月27日(土)～28日(日)

と ころ：鯖街道若狭熊川宿一帯・道の駅「若狭熊川宿」

主催：熊川いっぶく時代村実行委員会

熊川宿
を
再現
して
みる

恩地美佳
民謡ライブ

賑わい



お申込み・お問合せは
熊川いっぶく時代村
実行委員会

〒919-1532 福井県速岐郡上中町熊川43-37
熊川公民館 ☎(0770) 62-0135

若狭鯖街道の
観光物産展

参加者&作品募集

伝統工芸の実演

※切：9月5日(日)

- ◎おけ ◎水引細工 ◎かご(こ)る細工
- ◎竹細工 など

伝統工芸品製作に自信のある方、イベントは日熊川宿で実演披露していただきます。

熊川今昔物語

※切：9月5日(日)

昔懐かしの大ふく写真展

仕事・遊び・風景など、センスの中に映っている昔懐かしい写真を熊川宿で暮らしてみませんか？

今熊川宿フォトコンテスト

熊川宿を西遊記でできる力から、日常のほのぼのの作まで、感じたままの熊川宿を切り撮ってください。

熊川いっぶく時代村

※切：9月19日(日)

いっぶく時代村の名物となった手塗り轆を使つての珍レース、熊川宿に帰って来れるか？パフォーマンスは？一チーム三人以上で応募下さい。

※各イベントは予定です。諸事情により変更になる場合がございます。

ちよつとお知らせ

北海道新聞に熊川宿が



4月3日付の北海道新聞日曜版に熊川宿が紹介されました。これは「みちを歩く」という企画の第2回として特集されたもので、鯖街道の食や文化、宿場館のようすが2ページにわたり詳しく掲載されました。

あとがき

街道脇のあじさいが今年も奇麗に咲きました。梅雨空にもかかわらず大勢の観光客が語り部さんの説明を聞きながら散策して行きます。

五月三日の白石神社の例祭では、実に四十年ぶりに曳き山車巡行が行われ長年の夢が叶いました。

昨秋完成したばかりの「熊川の山車」には、「ふるさと文化復興事業」により漆塗りが施されました。見送り幕が掛けられて区内を巡行する勇壮な姿に感動しました。

熊川番所も完成し、この夏の一般公開で、また新たな見どころとして注目されそうです。

また町制50周年記念と若狭路博2003上中ステージとして開催される今年の「熊川いっぶく時代村」も着々と準備が進められ、今年はどうなイベントが展開されるのか、とても楽しみみです。

編集委員